

4

徹底した出題傾向分析

当会では受験校の**過去問**を最も信頼できる**合格判断材料**、また**教材**と位置づけています。

過去20数年のデータから過去問の点数が合格者平均を上回った受験生のほぼ100%が合格を勝ち取っていることが分かります。

当然最初から第1志望校の過去問で合格者平均を超える生徒はほとんどいません。

1回目の実施から3ヶ月程度の間隔を空け実施した結果がそうならいけばほぼ確実に合格しているのです。

当会では1回目の過去問実施後、本人の答案と過去問傾向を分析し、これからの約3ヶ月間の学習計画を練り、補強する部分を明らかにし授業・宿題に反映し、2回目の過去問実施に備えます。

出題傾向分析がどのように授業に反映されるかいくつかの例をほんの一部ですが、ご紹介いたします。

中受験

国語 **漢字の書き・読み・四字熟語・慣用句の出題のうち、慣用句の配点が高い**

予習シリーズ内に散らばっている慣用句を表にまとめる。

この暗記を宿題とし授業で毎回テスト、暗記できていない慣用句はカード化する。

算数 ① **過去問の計算問題レベルが現在使用しているテキストより上**

計算問題集（日能研マスター1095）を2巡することを目標とする。

② **大問1の小問（一行問題）の配点が約5割であり合格者平均も6割台**

小問をパーフェクトに得点することを目指す。メインテキストは予習シリーズから「計算と一行問題集」や他中学の一行問題に変更する。

残りの大問4つについては易しい問1だけ手を付け、問2以降は「時間が余れば解く」程度にする。これで十分合格者平均を10点以上超えることを本人に理解させ、意識を変えてもらう。すなわち、

「難しい問題で点を取る」 → 「易しい問題で点を落とさない」に意識を変える。

理科 ① 植物名・昆虫名・星座・星の名前といった記憶しておけば点が取れる問題は出題されないの、今後の学習では扱わない

② 記述問題（字数制限有り）の配点が高いため毎回宿題に字数制限がある記述問題を出し授業で添削、全単元をやりきったところで、傾向が同じ他中学の記述問題を集めこれも宿題に加える。

高校受験

国語 **都立入試では必ず作文が出題され、配点も高い**

① 毎回宿題に都立と同じ形式、すなわち、「説明文を1つ読んだ後、その文を参考に作文を書く」というスタイルで作文を書くことを宿題とし、授業で添削する。

② 本番入試では時間との戦いとなる為、傾向の同じ県立の過去問を使い、どの順番で解くと制限時間内に高得点が得られるかを宿題で試してもらう。

例えば 漢字（5分）配点20点 → 物語文（13分）配点26点 →

古典（13分）配点24点 → 説明的文章（19分）作文付き 配点30点

の順番と時間配分が概ねベストと分かった。

数学 **一般都立入試問題の第一問は基本問題で半分近く配点（46点）があるので、**

まず、全範囲の基本問題を徹底的に学習させる。

次に都立の大問1だけを集めた問題集で最終確認（ほぼ満点がでる）を行う。その後、大問2～5の中からそれぞれ1～2問を得点出来るように頻出問を固める。

例えば、「直線の方程式」、「合同、相似の証明」・・・

本番で70～80点での合格を狙う。

英語 **都立入試では必ず英作文が出題され、配点も高い**

傾向の近い県立英作文を多量に集め都立志望者には3年の夏から始める。

大學受験

センター試験 数Ⅰ・A Ⅱ・B 編

センター試験は出題者の考えた解法に従って□を埋めるスタイルいわゆる誘導問題です。定期試験とも、一般的な2次試験（一部私立大 慶応などでは採用されています。）とも異なっています。出題者の解法と意図を理解しないまま□を埋めていくと制限時間内に最後までたどり着くことは出来ません。数学の解法は1つの問題に対し複数存在します。この複数の解法の中から出題者の解法を選び出すためにはある程度の学力と普段から常に別解に取り組む姿勢が必要です。

しかし、センター試験の楽な面もあります。□には1つの数字・文字・符号しか入らないのです。例えば □ a なら □には-か2～9までの数しか入りません。（1 a はあり得ません。）この場合 9個の選択肢から1つを選ぶこととなりますが、ある程度問題が読めていれば勘で正解にいたることもあります。

また、問題を解いて1つ答えが出た場合、2次試験では「他にないか」や条件を満たしているか、すなわち十分条件を満たしているのかを吟味する必要があるのですが、センター試験では答えが1つ出たなら、もうそれが正解となるわけです。

センター試験には奇抜な問題はありません。時間さえあれば、問題作成者の意図も読み取れ、容易に解けます。つまり「時間をいかに節約するか」が重要な攻略法と言えます。

まず当会では君たちの解いた跡を徹底的に分析します。続いて以下の点をチェックすることから対策を開始します。

- ① 計算の工夫がされているか
- ② 遠回りしていないか
例> 2次関数の頂点を求めるのにわざわざ平方完成を行っていないか・・・
- ③ 時間がかかっている問題はどれか、どの分野のどの単元が弱いかな
例> ベクトル 成分表示を使った内積・三角形の面積が使いこなせていない
この種の問題を多数集め解いてもらいます。

こういったセンター試験の特徴を考えた場合、高1・2年生にも「いまどういう勉強をすべきか」が見えてくるはずです。